

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

国際社会において、SDGsの考え方が浸透しており、人種、文化、宗教等の違いに寄らない多様な観光活動が行われている。一方で、地域固有の地元ルール^⑦や観光に関する案内^⑧が十分に理解されないために、外国人旅行者の迷惑行動に発展する事例が増加しつつある。そのため、外国人旅行者のマナーを向上させる取組が重要である。よって、多様性の観点から、誰もが地元ルール^⑨を順守する環境づくりである^⑩。

- ⑥ 見出しと内容が合っていません。
- ⑦ 重複表現です。→「地域固有のルール」
- ⑧ 案内としてしまうと観光案内のように見えますので、問題を明確化するためにはここもルールで良いのではないのでしょうか。
- ⑨ ⑧の修正をした場合、地元ルールに限りませんので単に「ルール」が良いと思います。
- ⑩ →「が課題である」

(3) いかに省人化して取り組むか

これまでの観光業は、サービスを人的労働によって生み出す労働集約型産業である^⑪。しかし、生産年齢人口の減少を迎える中、観光地経営だけでなく、オバーツーリズム対策にも多くの人的リソースが求められている^⑫。よって、人材面の観点から省人化の推進が課題である。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

- ⑪ 「これまでの」とあるので、過去形にすべきです。→「あった」
- ⑫ 「しかし」とありますが、逆接になっていません。まずは、人手不足であることを述べ、さらに対策に人手が必要といった文脈にすると分かりやすくなると思います。→「観光業は、サービスを人的労働によって生み出す労働集約型産業であるにもかかわらず、人手不足が顕著である。生産年齢人口が減少を迎える中、さらなる人手不足が懸念されることに加え、オーバーツーリズム対策にも多くの労働力が必要である」
- ※常にもっと分かりやすくできないかといった視点で、推敲する練習をすると良いと思います。

2. 最も重要な課題と解決策

地域の安全、健康及び福利に直結するため「いかに観光マネジメントを推進するか」を最重要課題に選定し、以下に解決策を述べる。

(1) 集約型都市構造の構築

公共交通を用いて効率的に観光できる都市環境を構築することで、渋滞発生等を抑制する⑬。具体的には、地域公共交通計画を策定し、都市施設間を結ぶように公共交通網を再構築する。公共交通を利用した移動を実現することで、過度なレンタカー利用を抑制し、渋滞の発生を抑制する⑭。加えて、MaaSを導入し、観光施設の利用券と公共交通の乗車券がセットになったパスを発行する。予約時には、公共交通事業者と施設管理者の協力のもと、各観光施設の混雑状況をリアルタイムで表示することで、移動の分散化を図る⑮

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

- ⑬ 修正していますが、まだよく分かりません。おそらく都市環境を構築するという表現が理解を妨げていると思います。小見出しには、都市構造とあります。都市構造と都市環境は同義ではありませんよ。それぞれの意味をしっかりと理解したうえで用いましょう。また、そもそも論として、課題は「地域と行政による一体的な観光需要マネジメントの取り組み」です。地域との取り組みでもなければ、需要マネジメントでもないと思います。
- ⑭ ⑬のとおり、課題を踏まえた解決策とするためには、観光による交通需要と生活に伴う交通需要を一体的に削減することとして整理すべきではないでしょうか。これを実現するための手段として、「ウォークラブルなまちづくり」やこれらの拠点を公共交通で結ぶ「多極ネットワーク型の都市構造」といった行政の取り組みと、モビリティマネジメント（MM）など住民の協力による取り組みを組み合わせ論述展開すると良いと思います（課題は体制面なのに記述には住民の行動がないです）。
- ⑮ これは、地域との関わりと需要コントロールに関する施策になっておりよく書けていると思います。ただし、この取り組みは、都市構造とは関係ないですね。そうすると、見出しが内容と合っていないと思います。提案している取り組みに共通していることは、交通に関する事柄なので、見出しは「交通需要マネジメント（TDM）」ではないでしょうか。

(2) 観 光 地 マ ネ ジ メ ン ト

地域の多様な関係者により観光需要をコントロールするため、DMOを組成する。例えば、観光情報の多言語表記化等に取り組むことで、インバウンド層が効率的に移動できる観光ルートを計画できるようにする⑯。また、組成にあたっては、1次・2次産業等のノウハウも取り入れ、農業や製造体験を組み込むことで観光需要分散化を図る⑰。さらに、DMOを中心に宿泊施設等と連携した観光データの収集や分析を行う⑱。

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

観光地域づくりの司令塔として、地域受益効果の可視化等の地域経営の視点に立った取り組みを推進⑱していくことで、効果的なオーバーツーリズム対策⑳を推進する。

- ⑱ 多言語化表記はDMOでないとできないことなのですか。DMOと取り組みの関係性がよく分かりません。
- ⑲ 「組成にあたっては」とは「DMOを作るときには」という意味ですね。そうであるならば、DMOを作るときに必要な1次・2次産業のノウハウとはいったいどのような知見なのでしょう。そもそも組成なので、ノウハウを取り入れるのではなく1次2次産業を担う者を構成員として取り込むことが言いたいことですかね。このような組織構成によって、観光造成の際にそのノウハウが活用できるといった流れではないのでしょうか。さらに、農業や製造体験を組み込むことで観光需要の分散化を図ることができるのかもよく分かりません。飛躍しており、説明不足です。体験型の観光を造成することによって、新たな観光拠点を創出することができるため、分散化が図られるといった仕組みをきちんと説明しましょう。
- ⑳ 宿泊施設と何が連携するのですか。DMOとの連携だと思いますが、そうであるなら「DMOは宿泊事業者と連携し」となります。また、宿泊施設の関係者はDMOに組み込まれることも予想されますので、宿泊施設との連携ではなく、観光情報の一例として宿泊情報の収集を述べた方が分かりやすいと思います。→「DMOは、宿泊情報をはじめとした観光に関するデータの収集や分析を行う」
- ㉑ 地域活性化が目的ではなく、オーバーツーリズムを防ぐ観光需要のマネジメントが課題です。樹液効果ではなく、需要調整が必要な場所、時間などを明らかにするために分析するのではありませんか。目的がずれているように見えます。
- ㉒ これだけだと主観的に見えます。具体的な事例が欲しいです。

(3) 地域の魅力の最大限化㉑
地域に潜在する資源㉒有効活用し、観光客の分散化を

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

図る。例えば、普段訪れることのないインフラ施設の
見学を実施し、周辺観光地やイベント等を組み合わせ、
地域交流を促す ㉓。また、地域に潜在する小規模な公
的不動産については、スモールコンセプションを導入
する。例えば、廃校等の空きスペースを小規模事業者
に提供し、宿泊施設として運営することによってエリア価値
の向上を図る ㉔。このように、地域資源を活用した新
たな観光地を創出により ㉕、観光客の分散化を図り、
従来観光箇所のピークを緩和させる ㉖。

- ㉑ 内容で見出しが合っていないように感じます。
- ㉒ 「を」追記
- ㉓ 地域交流が目的になっていませんか。目的は需要の分散です。
- ㉔ これもエリア価値の向上が目的に見えます。目的は需要の分散です。
- ㉕ →「観光地の創出」または「観光地を創出することにより」
- ㉖ これまでの事例では、観光客の分散化を図れるのか判然としません。ピークがずれることが分かる事例を示しましょう。

3. 新たなリスクと対応策

地域の魅力が向上すること ㉗、宿泊施設の乱立等
の開発圧力が高まる。そのことによるスプロール化現
象の発生等、自然生態系への悪影響が懸念される。対
応策として、特別緑地保全地区制度を設定 ㉘する。一
定の建築行為や宅地の造成等の土地の形質変更を制限
することで、現状凍結的に地区を保全する。これによ
り、豊かな緑を将来に継承するとともに将来のインフ

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

ラ 投資の抑制といった波及効果も生じる^⑳。また、市民
民 緑地制度を併せて活用することにより、地域の自然
とのふれあいの場として活用することができ、地元住
民の交流促進にも寄与される^㉑。 以上

- ⑳ 地域の魅力が高まることを既成事実のように述べていますが、やっていることは地域の魅力向上対策ではなく、観光需要の適正化対策です。よって、順を追った説明が求められます。→「観光需要の適正化により地域の魅力や価値が高まり」
- ㉑ 制度は設定するものではありません。→「特別緑地保全地区を設定」または「特別緑地保全地区制度を活用」
- ㉒ インフラ投資の抑制がなんだかよく分かりません。開発に伴い整備されるインフラ施設の維持管理コストの抑制を指しているのでしょうか。説明不足です。
- ㉓ リスクは「開発によるスプロール化現象の発生と自然生態系への悪影響」なんですよ。市民緑地がこれらのリスクにどう対応できているのか全く分かりません。